【学術変革領域研究（A）】

顔身体のデザイン：実践・実証・設計に基づく顔身体の深化と昇華

研究代表者	中央大学・文学部・教授 山口　真美（やまぐち　まさみ）	研究者番号：50282257
研究課題情報	課題番号：25A101 キーワード：顔、身体、デザイン、イマジナリとリアル、倫理	研究期間：2025年度～2029年度

なぜこの研究を行おうと思ったのか（研究の背景・目的）

●研究の全体像

哲学・文化人類学・心理学の分野の領域横断に成功した前領域「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築－多文化をつなぐ顔と身体表現（略称「顔・身体学」）」（2017-2021）では、グローバル化で生じる顔身体の無意識の営みを意識化し、多様な地域で「当たり前」とされたことを再考する試みを通して、顔身体を中心に異質なもの同士の理解を目指した。

顔身体を巡る社会状況は今、急速に変化している。オンライン化やメタバースの登場で、自分の「顔」と「身体」の関係について新たな問題に直面している。SNSでは自分の顔だけをアイコンにして、本当の自分とは違う理想の顔を作り上げたり、オンライン会議の増加で実際に人と触れ合うことが減り、人間関係にも変化が生じている。さらに、戦争や感染症などの危機の中では、特定の顔や身体を持つ人への差別が目立つようになったり、亡くなった人に直接触れたりお別れしたりできないことが苦しみを生んだりということが起こっている。障害を持つ人が日常的に感じる身体の痛みや社会からの疎外感も重要な問題である。

こうした課題を解決するためには、本領域では顔身体のリアルとイマジナリー（想像）の往還により顔身体の持つ問題の深化と昇華を通じて、未来の顔身体とその社会のデザインに寄与することを目指す。差別、痛みなどを含む、現代社会の顔と身体の多様な歪みを解消し、テクノロジーの進化によるヒトと人工物の新しい顔身体のあり方を提唱する。すなわち、「社会・文化を原因とする差別や痛み等負の特性を軽減する理想的な顔身体を目指す」未来の顔身体を構築すること、顔身体が抱える差別を解消する倫理と教育を展開すること、さらに芸能・芸術などの実践で顔と身体を考えることを通して、個々人の痛みを解消する社会の構築を目標とする。

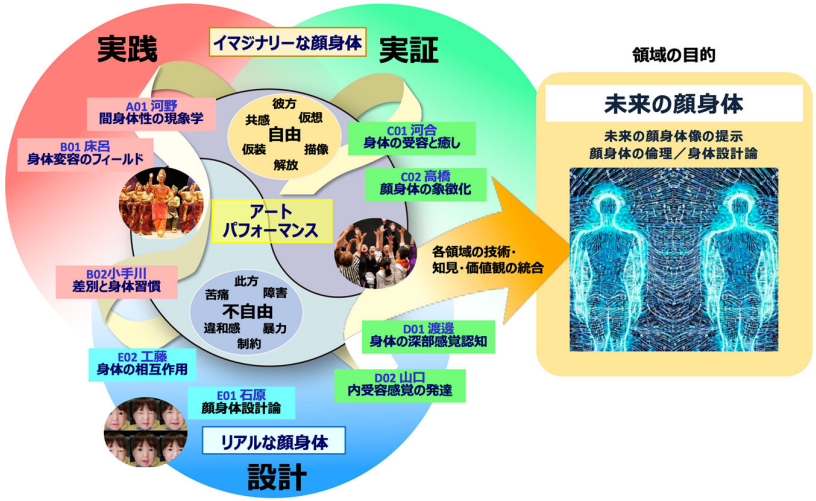

図1　本領域の全体像

●実践・実証・設計による研究推進

本領域では顔身体のデザインに通底する**顔身体の倫理と哲学**のもとで、研究分野の枠組を撤廃し、**【実践】【実証】【設計】**の循環により、リアルとイマジナリの顔身体の概念の拡張・逸脱・深化・昇華を目指す。

【実践】顔と身体が一体化するアートやパフォーマンス等の実践を導入することで、リアルとイマジナリという枠組みで顔と身体の実存的側面を追求する（拡張・逸脱）
【実証】人々の情動的なつながりを支える内受容感覚と深部感覚に焦点をあて、様々な地域のフィールドワークや実験的研究から実証的な解析・理論化に行う（深化）
【設計】ロボット工学による設計論を導入し、身体科学も加味して、構成論的なアプローチから未来のヒトと人工物の顔身体を設計し提示する（昇華）

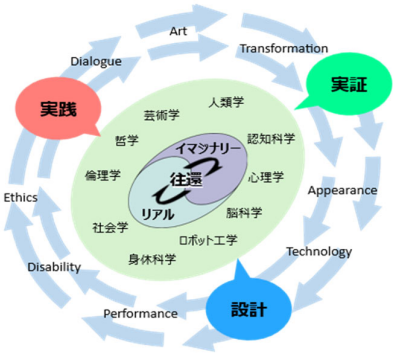

図2　実践・実証・設計による研究推進

この研究によって何をどこまで明らかにしようとしているのか

●展望と社会への波及効果

個々の顔身体は、それぞれの欠損や逸脱・隠蔽・違和感など負の特性を持つ。画一化され、平均化された顔身体の社会的枠組みから脱却するため、本領域は、多様な顔身体のインタラクションと、そこから抽出された未来の顔身体のデザインの提示、さらに顔身体の深いつながりの基盤となる内受容感覚の働きの重要性とその学習の可能性を提案すると同時に、多様な顔身体の受容のため新たな顔身体倫理を形成する。

これらの成果により、顔身体に内在する負の特性を克服し、テクノロジー時代にふさわしい「未来の顔身体」とその共生社会を設計指針として提示し、政策提言と教育カリキュラムといった社会実装へ繋げる。

●【実践】リアルとイマジナリの交差

リアルな顔身体（実）とイマジナリな顔身体（虚）という概念を設定し、顔身体の実存的な側面に焦点をあて現象学的考察(A01)を進めるとともに、アートや差別など多様な実践の中の顔身体のインタラクションを収集する(B01/B02)。リアルとイマジナリが交差する顔身体インタラクションを質的・量的にマッピングすることで、リアルな顔身体とイマジナリな顔身体の往還により創出される新しい身体意識を解明する。

●【実証】不自由な顔身体とつながる内受容感覚

イマジナリな顔身体と比較することにより浮かび上がる、リアルな顔身体が持つ制約と不自由さの受容と変容過程をあつかう。不自由な顔身体の受容と癒やし（C01）、不自由な顔身体の象徴化（C02, 図3）など様々な地域のフィールドデータの解析を通して顔身体とつながる内受容感覚の理論化を行う。さらに、実験的検討により、顔身体とつながる内受容感覚の認知過程（D01, 図4）と発達過程（D02）を明らかにする。

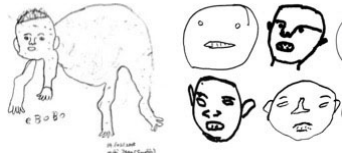

図3　顔身体の多様な象徴化（C02）

●【設計】深部感覚が媒介するインタラクション

人工物との、そして人間同士の顔身体を介したインタラクションに内在する深部感覚を扱うことで、情動インタラクションを可能にする顔身体についてロボット／アンドロイド設計・実装（E01）および顔身体間インタラクションの数理的解析（E02）により、ロボット工学と身体科学のアプローチから未来の顔身体をデザインする。

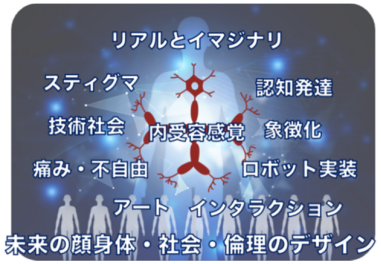

図4　本領域が扱うトピック

ホームページ等	Web: https://face-body-design.tamacc.chuo-u.ac.jp/ X (Twitter): https://x.com/facebodydesign Facebook: https://www.facebook.com/profile.php?id=100064782994325